Indoor Environment, Vol.27, No.1, p.68, 2024

2023年室内環境学会学術大会 大会長奨励賞
優秀ポスター賞（学生会員）受賞の言葉

P-66# 自然換気下の伝統的町家及びRC造集合住宅における快適性に関する心理・生理学的研究（その1）実験概要及び作業効率に関する検討

宗菜津未[1)]，山中俊夫[1)]，崔ナレ[2)]，竹村明久[3)]，小林知広[1)]，大野成陽[1)]，長續仁志[4)]

1)大阪大学，2)東洋大学，3)摂南大学，4)(株)大林組

このたび，2023年室内環境学会学術大会で発表いたしました“自然換気下の伝統的町家及びRC造集合住宅における快適性に関する心理・生理学的研究（その1）実験概要及び作業効率に関する検討”にて優秀ポスター賞を賜りましたこと，誠に光栄に存じます。

春や秋に住宅で窓を開けて過ごすと，風が通って気持ちいいという経験をしたことのある人は多いのではないでしょうか。窓を開けて過ごすと快適に感じるのは，もちろん気流感も影響していますが，音やにおい，自然光や景観など様々な環境要素が影響しています。しかし，窓を開けて過ごす上でどんな環境が最も快適なのか，仕事が捗るのかといったことを研究している事例は少ないです。そこで，「伝統的町家」と「一般的な集合住宅」という全く形式の異なる2つの住宅に着目し，実験を行いました。伝統的町家には大きな窓と中庭があり，外部の自然との繋がりが強いという特徴があります。一方で集合住宅は，単純な窓を有するごく普通の一室です。複数の作業を行った結果として，俊敏性や正確さを必要とする単純作業には，窓を閉めた状態の集合住宅が適している可能性が示されました。実際，そのような作業をする際に周りの景色はあまり見ませんし，ただ静かで明るい環境が好まれるのにも納得します。一方で，案を考えるなど，思考力を必要とする作業においては，住宅の形式や窓の開閉の影響はないという結果になりました。視覚的に情報の多い伝統的町家や，感覚で刺激を感じる窓の開いた条件で良い成績が出ると予想していましたので，意外な結果でした。まだ参考事例の少ない研究の方針を定める取っ掛かりとして実施したこの実験の結果を踏まえて，今後はパラメータを絞り，検討を進めていきたいと考えております。

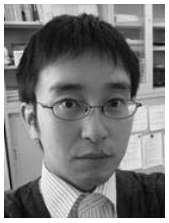
最後になりましたが，本研究にご協力いただいた被験者の皆様，一緒に研究を行った共同研究者の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

著者データとプロフィール

宗菜津未
（そうなつみ）
大阪大学大学院
工学研究科地球総合工学専攻
博士前期課程2年

山中俊夫
（やまなかとしお）
大阪大学大学院　工学研究科
地球総合工学専攻
建築工学部門　教授

崔ナレ
（ちぇなれ）
東洋大学
理工学部　建築学科
助教



竹村明久
（たけむらあきひさ）
摂南大学　理工学部
住環境デザイン学科
准教授

小林知広
（こばやしともひろ）
大阪大学大学院　工学研究科
地球総合工学専攻
建築工学部門　准教授

大野成陽
（おおのしげはる）
大阪大学大学院
工学研究科地球総合工学専攻
博士前期課程1年

長續仁志
（ながつぐひとし）
株式会社大林組
グリーンエネルギー本部
大阪大学大学院
工学研究科地球総合工学専攻
博士後期課程3年